



子ども大学たま

2021 年度

【第 1 期】

活動報告書

学長 榊原 洋一から子どもたちへのメッセージ



榊原 洋一

小児科医。

子ども大学たま学長。お茶の水女子大学名誉教授。

日本子ども学会理事長。

専門は小児神経学、発達神経学、特に注意欠陥多動性障害、アスペルガー症候群などの発達障害の臨床と脳科学。

皆さん、子ども大学たまへようこそ！

皆さんは「大学」ってどんなことをするところか知っていますか？

小学校や中学校より難しい勉強をしているところ？

社会人になった時に必要な知識を得るところ？

これらの答えは、半分だけ当たっています。

大学の一番重要な役目は、まだ答えがわかっていないことを研究したり、まだ世の中にな
い道具やしくみを発明したりすることです。

皆さんは今勉強が楽しいですか？

楽しくない人もいるかもしれませんが。そのわけは今、皆さんが勉強していることは、もう
答えがわかっていることが大部分だからではないでしょうか。

もっと深く知りたいと思っている人には物足りないかもしれません。

皆さんが学校で学ぶことは、皆さんが近い将来に大学生あるいは社会人として、まだ誰も
見つけたことのない秘密や、誰も体験したことのないものやしくみづくりにチャレンジし
てゆくための土台作りなのです。

子ども大学では、大学や世の中で最先端の新しいことを発見したり、作り出そうとしたり
している人が先生になっています。

そして、皆さんにまだわかっていないことを探求したり、まだ世の中にな
いものやしくみづくりにチャレンジすることの楽しさを皆さんに伝え、体験してもら
う場所です。

さあ、未来への一步を踏み出しましょう！

子ども大学たま 校歌のご紹介

子ども大学たまの校歌は詩人であり翻訳家・絵本作家である谷川俊太郎さんに作詞を、その息子でピアニストであり作曲家の谷川賢作さんに作曲をしていただきました。

子どもたちのちから、子どもたちの才能、子どもたちの可能性を何よりも認めて、同じ目線で背中を押し、勇気づけ続けてきた谷川俊太郎さんと谷川賢作さんに、「子ども大学たま」で学ぶ子どもたちを応援する歌を作っていただいています。「なぜ?」「どうして?」と問いかける子どもたちに、学ぶということの大切さ、また探究するということの面白さを、この校歌を通して、改めて感じてもらえることを願っています。



子ども大学たまの歌

作詞 谷川俊太郎
作曲 谷川賢作

まだ知らない
まだ分からないからおもしろい
世界は今日も待っている
アタマとココロで学ぶ明日
地球はまだまだ新しい

まだ知らない
まだ分からないからのしみだ
未来は今日にひそんでる
アタマとカラダで創る明日
歴史はまだまだ新しい

※谷川賢作さんの授業内容は、p.16 から掲載しています。

目次

■入学式／第1回授業

- ・日 時：2021年5月16日（日）14:00～16:30
- ・テーマ：もりと私たちの暮らし

■第2回授業

- ・日 時：2021年7月18日（日）14:00～16:00
- ・テーマ：健康って何からできている？～コロナから食事まで

■夏休み特別授業

- ・日 時：2021年8月22日（日）14:00～16:00
- ・テーマ：夢のデザイン

■第3回授業

- ・日 時：2021年11月7日（日）14:00～16:00
- ・テーマ：ロケットと人工衛星で探る宇宙のブラックホール

■第4回授業

- ・日 時：2022年1月16日（日）14:00～16:00
- ・テーマ：脳活動に良い生活習慣

■第5回授業

- ・日 時：2022年2月13日（日）14:00～16:00
- ・テーマ：賢作と一緒に音で遊ぼう「みんなでピカソに挑戦！」～アーティストってすごい
実験しながらどんどん変わっていくんだね～

■第6回授業／修了式

- ・日 時：2022年3月27日（日）14:00～16:30
- ・テーマ：古代エジプトのはなし

■入学式／第1回授業



- ・日 時：2021年5月16日（日）14:00～16:30
- 入学式
榊原 洋一（子ども大学たま学長、お茶の水女子大学名誉教授）
- 第1回授業
・講 師：山本 博一氏（東京大学名誉教授）
・テーマ：もりと私たちの暮らし

<内容>

2021年5月16日の日曜日、子ども大学たま開校。入学式と第1回目の授業をオンラインで開催しました。

冒頭に、学長の榊原先生からのご挨拶、
そして、子ども大学たまの校歌を初めて第1期生の子どもたちに披露しました。
谷川俊太郎さんが詞を書き、
谷川賢作さんが曲とメロディをつけて作ってくれたもので、
大人が聞いても、心と体が勇気づけられるような名曲です。

さて第1回目の授業は、山本博一先生がご登壇。

東京大学を卒業後、当時の農林水産省にて「森林官」として従事され、屋久島などで勤務なさったこともあるという山本先生は、その後長い間、東京大学の教授としても活躍されてきました。

現役の小学4年生～6年生たちと、元東京大学教授のやりとりはどのようになるのか、
先生の話が難しすぎてわからなかったりしないだろうか…と
事務局スタッフ一同、大変ドキドキしながらの初日でしたが、実際にやってみたところ、
子どもたちから次から次へと様々な質問が投げかけられ、最終的に森林のことにとどまらず、
地球のこと、人類のこと、環境のこと、暮らしや生活で使う割り箸のことについてなど、
あれこれに思いを馳せるに十分な学びの時間を過ごせたことがわかりました。

実は見守っていた事務局スタッフも驚いたのは、山本先生が子どもたちからの問いかけに答える形で教えてくださった

「日本の森を守るには、木で作られたものをどんどん使うこと。どんどん買ってあげること」ということ。

環境に配慮をする気持ちから、例えばマイ箸を持ち歩いて割り箸はなるべく使わないようにする！という方も少なくないかもしれませんが、山本先生曰く

国内の森から採れる木材から作られているものなのであれば、むしろぜひ買ってください。ぜひどんどん使ってください。国有林を育てる取り組みが限定的なのは、今国内で消費される木材の大半が海外輸入品だからです。国内の木材を加工したり販売したりする業者さんも減ってしまうので、ぜひ応援してあげるといいですよ。

ということでした。

子ども大学たま初年度ということで、事務局スタッフは毎回振り返りながら次回に向かってより良い授業を作り上げていく努力をしていきます。

<子どもたちの声> ※授業後アンケートより

●授業で新しく知ったことについて

- ・地球温暖化を防ぐことができると分かりました。
- ・森は災害をふせいでくれる。地球温暖化防止にもなる。

■第2回授業



- ・日 時：2021年7月18日（日）14:00～16:00
- ・講 師：岩堀 禎廣氏（日本薬科大学客員教授）
- ・テーマ：健康って何からできている？～コロナから食事まで～

<内容>

子ども大学たまの2021年度第2回目の授業も、コロナの状況を鑑みてオンラインでの開催となりました。

年度当初にご案内した予定を一部変更して、講師は日本薬科大学客員教授の岩堀 禎廣先生、通称アフロ先生。

健康のこと、食のこと、コロナのこと・・・

というテーマ設定でしたが、蓋を開けてみると大人も驚かされるような社会の未来像の話、また私たちの体や心の健康をどのように作っていくかという大変興味深いお話の連続で、子どもたちのみならず、スタッフ一同が唸ってしまうような内容でした。

先生がお話しされた内容の最後に、「同質性と多様性」の話がありました。

「自分がされて嫌なことは、人にしてはいけないよ」という言葉、日本社会で生きてきた私たちがそこかしこで耳にしてきた、時には口にしてきたことかもしれません。

アフロ先生は

「自分がされて嫌なことが、他人もされて嫌なことかどうかはわからない」というお話をされました。

それくらいに、人と自分とは違う部分がそもそもあるのだということを認める必要があります、というお話。

自分がこう感じるのであれば、他人もそう感じるはずだ、
という前提そのものを疑う必要もありますね、というお話は、
そもそも人と自分は違うものなのである、という事実で改めて気付かせてくれます。

人と同じ部分を探すことばかりでなく、
人と違う部分を探すこともとても重要なんですね。
という先生の語りかけに、子どもたちのみならず大人たちも、ハッ！とさせられる体験となりました。

さらに、オンラインという状況の中で初めて、今回は先生が子どもたちと一緒に「バスボムを作る」という実験に挑戦。
それぞれのご家庭の中で、オンラインで先生と一緒に実験に挑戦し、経過も結果も楽しんでくださっている様子に、スタッフ一同、オンライン授業の新たな可能性を再確認した第2回となりました。

<子どもたちの声> ※授業後アンケートより

●授業で新しく知ったことについて

- ・健康っていろんな意味があったんだなと思った。
- ・自殺をしている人が多い。自分は自分の食べた物でできているという事。

■夏休み特別授業



- ・日 時：2021年8月22日（日）14:00～16:00
- ・講 師：野澤 武史氏
（ラグビー元日本代表、一般社団法人スポーツを止めるな代表理事）
- ・テーマ：夢のデザイン

<内容>

夏期特別授業では、元ラグビー日本代表の野澤武史さんに、「夢のデザイン」というテーマで講義を行っていただきました。

野澤さんの講義は、「決まっている答え」を教えるようなものでも「事実や知識」を教えるようなものでもなく、子どもたちに、1人の少年が夢を抱いてそれに向かって走ったこと、そしてその走った中で起きた様々な出来事、自分の気づき、意識の転換や人生のステージの変化、仲間やライバルの存在、自分にとっての教えを与えてくれた師への恩、それら全てをひっくるめてやることをやってきたんだという自信をもった大人となった野澤さん自身のストーリーを伝えることで、繰り返し繰り返し、大切なことを教えていただきました。

子どもたちには、もしかしたらまだまだ想像もできない壮大な人生のお話だったかもしれません。

まだ小学校を卒業する前の子どもたちは、「卒業文集」とは何なのか、何を書くものなのか、夢って何なのか、みんな夢があるものなのか、そういうことも未知のお話かもしれません。

けれども、この夏の日午後の2時間の授業で伝えられた野澤さんのお話は、子どもたちの中にぼんやりとでも残り、きっといつか思い出して勇気づけられる力になってくれたのではないかと思います。

野澤さんが子どもたちに持って帰って欲しいと伝えたこと。

「得意なことより、好きなこと」。

365日頑張れる、毎日やっても飽き足りない、そんなことに出会えたら、見つけられたら、その人は誰にも負けないよ。

また、

「失敗することよりも、チャレンジしなかったということの方が後悔する」。

この言葉の強さが、事務局スタッフの大人たちには本当にビビ！！と電気のように走りまわりました。

失敗するよりは、チャレンジしないでおこうか…と考えることもあるのが、大人の判断かもしれない。

それでも、この言葉を子どもたちに届けてくださった野澤さんに感謝です！

野澤さんは山川出版社の代表であり、元ラグビー日本代表であり、経歴はピカピカ、人柄も素晴らしく、成功されている方であることは間違いありません。

が、この講義の中で語ってくださった野澤さん自身の大変きつかった時期、苦しんだ時期のこと、その葛藤について。

この葛藤の時期があったからこそ、次へと進むことができたということも含めて、大変な体験も子どもたちにわかりやすく伝えようとしてくださいました。

だから、みんな、失敗や挫折は、恐れなくていいよ。それより、チャレンジしないで終わってしまう方が、後悔することになるかもしれないよ。

その言葉にはとても重みと深みがありました。

同じ言葉でも、親が言うより、先生や、家庭以外の場所で出会った大人に言われるからこそ学んだり、納得できたりすることもあるかもしれません。

夏期特別講義は、このように、特別講義らしく、人生哲学の入門編のような内容でした。

<子どもたちの声> ※授業後アンケートより

●授業で新しく知ったことについて

- ・夢を叶えるための大切なこと（4年生）
- ・好きよりも得意を優先していたけど好きなことも大事（5年生）

■第3回授業



- ・日 時：2021年11月7日（日）14:00～16:00
- ・講 師：牧島 一夫氏（東京大学名誉教授）
- ・テーマ：ロケットと人工衛星で探る宇宙のブラックホール

<内容>

先生が宇宙を学ぶことにしたのは小田稔さんがきっかけというお話に始まり、先生ご自身の経歴や辿られてきた学問の道筋の紹介から第3回授業が始まりました。

宇宙の大きさ比較では子どもたちからもたくさんの反応がありました。

太陽系、星、天の川、銀河について、それぞれどれほどの大きさなのかを数値で表しつつ、デザインや写真資料でそのスケールの理解を促します。

宇宙にはじっこはあるか？という先生からの問いに子どもたちは頭を悩ませますが、過去の世界の各地の伝承や考え方では世界の形はこうなっていたというものがある、という絵などの紹介では、子どもたちから微笑みが漏れました。

世界のはじっこ、いろいろな解釈がなされてきましたが、今の可能性では無限の宇宙があるという事実の認識が伝えられます。

タイムマシンはあるか？この問いには国民的アニメなどを通して色々夢や希望をもっている子どもたちの目が輝きましたが、先生は科学者らしく、現段階ではタイムマシンを作ることは難しい、というお言葉を発されていました。

宇宙と時間の関係。

今見ている星や銀河の時代、時間軸とは。この辺りから、大変内容が高度になってきますが、先生は手加減をする様子がありません。

宇宙のはじまり、ビッグバンについて、また宇宙の膨張と収縮と暗黒空間、暗黒エネルギーの関係。大人でも知らない単語が複数出てくる中で、一生懸命メモを取り続けている子どもの姿も見られました。

質問タイムではたくさんの質問が上がってきました。

それらに応えつつ、先生が経験した小さな頃の日食のお話をしてくださったのが印象的でした。9歳の時、88パーセント太陽が欠けた時があったのを観察していたことをよく覚えているそうです。

後半にはより具体的に、ご自身の参加された日本のロケット開発の歴史や打ち上げ体験のお話をされました。

国際宇宙ステーションの仕組みは住宅に例えて教えてくださり、子どもたちもなるほど、とうなずいていました。

終盤ではブラックホール、アインシュタインの相対性理論、質量の話がありました。

重い星が死ぬ際に生じるブラックホール、かつては理論上の存在、今では数多くのブラックホールが存在していることが知られている。ブラックホールができる瞬間…ガンマ線バースト。このお話を子どもたちがどのような形で理解してくれたかはそれぞれかもしれませんが、最後まで集中して話を聞き続けてくれた様子に、事務局もホッとする気持ちと頼もしいという気持ちを感じさせられました。

終わりに、先生から「どんどん疑問をもちましょう！頭から信じない、大人の言うことも！なぜだろうどうしてだろうと考えよう」というお話があり、これは事務局スタッフたちもとても共感してしまうセリフでした。

宇宙のことはまだまだわかっていないこと、わからないこともあるからこそ、先生が教えてくださったこと「あることの証拠は見つけられるが、ないということの証明はできない」ということを、スタッフ一同も胸に刻んでこの回の授業は終わりました。

<子どもたちの声> ※授業後アンケートより

●授業で新しく知ったことについて

- ・ある、というのは証拠さえ見せれば言えるけど、ない、というのは絶対に言い切れないということ。びっくりした。ガンマ線バーストはオルドビス紀に起きて浅瀬のいきものがみんな死んだ。おそろしい。宇宙には本当に果てがないのかなあ？と思いました。(4年生)
- ・ロケットが東向きに発射される理由(6年生)

■第4回授業



- ・日 時：2022年1月16日（日）14:00～16:00
- ・講 師：山田真和氏
（産業医科大学元教授、武蔵野徳洲会病院肝臓内科部長）
- ・テーマ：脳活動に良い生活習慣

<内容>

第4回授業は「睡眠と運動の勧め」というサブタイトルで、まずはナマケモノの写真を見ながら学生の皆さんに変顔をしてもらうなどの脳活動チェックから始まるという切り出しでした。

先生ご自身は人生で大切にしているものが「3M」ということで

Medicine

Mountain

Music

本業の脳医学の他にも、山登りや音楽を愛する一面も見せてくださりました。

「脳は全身の司令塔」として脳至上主義が取られてきた時代から、研究が進むごとに過去の常識は今の非常識として様々なことがわかってきています、という冒頭のお話から、日々の発見や探究がいかに新たな可能性を私たちにもたらしてくれるか、期待に胸が膨らみます。

大脳辺縁系の海馬・扁桃体が記憶をつかさどり、ボトムアップの神経シグナルを送っている。

また、神経細胞は死滅するとそのままだと思われていたのが、近年ではエリザベスグールドの研究から、神経細胞は復活するということも明らかになっているそうです。

もっと脳の働きを活発にするためにはどのようにしたらいいか、脳を活性化するにはどうしたらいいか、それには3つのポイントがあると先生は説明します。

- ・魚を食べること
- ・夜はよく寝ること
- ・よく運動すること

この3つのポイントをそれぞれ科学的に講釈してくださいました。

特に今回先生から詳しく説明されたのは、2番目の「睡眠」についてです。

「グリンパティックシステム」という働きを睡眠によって得ることができ、これにより脳の掃除が行われるため、よく眠らないと脳の掃除がうまくできずに脳にゴミが溜まったままの状態になってしまう、ということでした。

寝ないと増えるアミロイドBはアルツハイマー型認知症の要因にも…というお話は、子ども大学の子どものたちの保護者や祖父母のみなさまにも、とても関心の高いところではなかったでしょうか。

先生から、よく眠るためにどんなことが必要かについての説明がなされ、この内容は子どもたちも興味津々で、最後の質問コーナーでは子どもたちから「寝る前どれくらいでスマホやゲームをやめた方がいいですか」という、とても具体的な質問が出ていました。

また、睡眠に続き、運動に関する講義では、筋肉が脳を慈しみ育てるということ、そして有名な哲学者ニーチェの言葉「偉大な考えは歩くことで得られる」も紹介されました。

授業の後半では前半で教えていただいた知識に加えて、これからの地球がどんな課題を抱えているのか、そしてその課題を解決するために人類はどのようなことをしていくべきか、という壮大なテーマから問いかけが行われました。

先生から提示されたいくつかの案に、子どもたちもこれまた目を輝かせて、まるでSF映画を見ているような表情でいろいろな疑問を投げかけていました。

子どもたちに、君たちは大学生だから、知識も教えるけれどよく考えて、問いかけてみたいこと、質問してみたいことはこの授業の時間の後にでも、いくらでもメールで送ってきてください、答えますからね、とおっしゃってくださった山田先生。

子どもたちに「問うこと」の大切さを教えてくださった、とても内容の濃い講義でした。そして内容的に、全ての世代の方々に届けたいものでもありました。

<子どもたちの声> ※授業後アンケートより

●授業で新しく知ったことについて

・寝ないと頭の中の記憶や覚えたことが整理されないという事を学び、受験生の姉にすぐ伝えようと思った。新しいことを学べて楽しかった！！（4年生）

・寝ることが、脳のゴミをそうじしているということを、はじめて知った。知らない言葉もけっこう出てきて、難しいこともあった。（5年生）

■第5回授業



- ・日 時：2022年2月13日（日）14:00～16:00
- ・講 師：谷川 賢作氏（作・編曲家/ピアニスト）
- ・テーマ：賢作と一緒に音で遊ぼう
「みんなでピカソに挑戦！」～アーティストってすごい
実験しながらどんどん変わっていくんだね～

<内容>

第5回授業は、お待ちかね！子ども大学たまの校歌「子ども大学たまの歌」の作曲をしてくださった谷川賢作さんのご登壇でした。

2021年度は子ども大学たまの開校初年度でありながら、コロナ禍の影響ですべての回をオンラインで開催しましたが、この第5回授業だけは他の回とは少し異なる形式での実施となりました。というのも、この日のテーマは音楽。楽器演奏の臨場感をオンラインで子どもたちに伝えるにはどうしたらいいか。賢作さんと子ども大学たまの事務局スタッフで協議を重ね、グランドピアノがある八王子のホールから授業を配信することにしましたのです。

そして迎えた当日。「ピアノを弾いたり、テレビや映画の音楽の作曲をしたりという仕事をしています」という賢作さんの自己紹介から授業が始まりました。

「授業」だけど気楽に考えている、とおっしゃる賢作さん。今日はみんなに何かを投げかけて、「あれ？賢作さんの言ってることおもしろい！でも何か違うところもあるよ、僕／私だったらこう考える、こう思う」そんなやりとりをごちゃごちゃやりたいです、と。

ことばでの自己紹介に続き始まったのは、音楽での自己紹介。早速1曲目のピアノ演奏を披露してくれました。演奏後に見せてくださった楽譜は、コード進行だけが載っているもの。クラシックでは楽器それぞれについて違った楽譜があるけれど、ジャズの場合はすべての楽器共通でコード進行の楽譜があるのみ、とのこと。大人も勉強になります。

- ・聖者の行進♪ ⇒賢作さんの演奏がどんどん変化していきます
- ・ピカソの自画像、初期から晩年のものまで4枚 ⇒作風がどんどん変わっていきます
- ・ふるさと♪ ⇒賢作さんの演奏がどんどん変化していきます

「変化したふるさと♪もふるさとと呼んでもいい？」

「ピカソの自画像はどれが一番好き？」

「変化したピカソの自画像がどうしても嫌な人は？」

賢作さんの投げかけは続きます。

抽象表現の方向に音楽がいつでもアリだと思う、とおっしゃる賢作さん。

続いてメロディ、ハーモニー、リズムに加えて、音楽の第4の要素である「音色（おんしよく）」のお話を、鍵盤ハーモニカを演奏しながら紹介してくださいました。

そしてイソップさん♪（作詞谷川俊太郎・作曲谷川賢作）の演奏で前半が終了しました。

谷川俊太郎さんが作詞、賢作さんが作曲してくれた「子ども大学たまの歌」のお披露目から始まった後半。ジャズ風、ボサノバ風にアレンジされたバージョンも披露され、さらにはふるさと♪のサンバ風アレンジも。

その後のQ&Aタイムもとても盛り上がり、子どもたちから次々と質問が上がりました。

- ・いつから音楽を始めましたか？
- ・どうして作曲家の道を選んだのですか？
- ・一番好きなジャズピアニストは誰ですか？
- ・曲を作るときにどうするとメロディが出てきますか？
- ・何をしているときにメロディが浮かびますか？
- ・どうやって作曲しているんですか？
- ・一番好きなクラシックの作曲家は誰ですか？
- ・どうしてそんなに色々なアレンジができるんですか？
- ・曲を作るとき、先に題名を決めているんですか？
- ・どうやってアイデアが思い浮かぶんですか？
- ・作曲で困ったことはありますか？
- ・AIが作曲することについてどう思いますか？
- ・どのようにして音楽を表現していますか？
- ・クラシック音楽で気に入っている曲は何ですか？

ひとつひとつの質問に対して、ご自身のこれまでの体験が詰め込まれた引き出しの中から、あの話、この話を一生懸命紹介してくれました。

最後に有名な鉄腕アトム主題歌♪（作詞谷川俊太郎）のジャズアレンジ版を披露してくださり、賢作さんの授業は終了。

音楽がどんどん変わっていく様を目の前で体現して見せてくれ、それがいいんだよ、と一貫しておっしゃる賢作さんの目は、キラキラと輝いていました。この日の授業を通して、子どもたち一人ひとりの心に、どんなメロディが響いたのでしょうか。

<子どもたちの声> ※授業後アンケートより

●授業で新しく知ったことについて

- ・音楽にはルールがないことを知った（6年生女子）
- ・自分の思ったとおりにアレンジができるのがすごいし、色んなジャンルの音楽を聴いて脳に入れて、それを加えるというのが勉強になった。（5年生男子）

■第6回授業／修了式



・日 時：2022年3月27日（日）14:00～16:30

●授業

- ・講 師：近藤 二郎氏
（早稲田大学文学学術院教授）
- ・テーマ：古代エジプトのはなし

●修了式

- 榊原 洋一
（子ども大学たま学長、お茶の水女子大学
名誉教授）

<内容>

エジプトクイズからスタート。

エジプトはどこにあるでしょう、日本からどれくらいの距離があるでしょう、今は何時くらいでしょう？という基本的な知識を確認するところから始まりました。

先生のこれまでの研究活動で蓄積してこられたさまざまな知識とたくさんの資料・写真と共に授業が進められていきました。

1822年にシャンポリオンによるロゼッタストーン上のヒエログリフ解読がなされたこと、そのロゼッタストーンが発見当時は、実は人工的に黒く塗られて字の部分に石灰が詰められていたというお話や、

1922年にツタンカーメン王の墓が発見されたのはヨーロッパから避暑で訪れていた大富豪が暇で仕方がなく墓の発掘を始めたからだ、という裏事情のお話があり、エジプト好きな大人でも唸ってしまう内容の数々でした。

子どもたちにもわかりやすいように、大英博物館に保存されている王の墓から出土したという2,000点ほどの宝物の中から銀のトランペットや将棋盤、象牙の枕や草履などの写真も見せてくださり、画面上から子どもたちの興奮が伝わってきました。

その後、いよいよピラミッドのお話に入っていきます。

ピラミッドは最も古いものは約5千年前、階段状になっているものから始まり、上の部分が崩れてしまっている崩れピラミッドや、途中から角度が変わり小さめに建設されていることがわかる屈折ピラミッドなど、いろいろな形や時代背景をもつものがありました。

ピラミッドはそもそもどうして三角形なのか、誰がどのようにして作ったのか、質問の時間には子どもたちからたくさん手が上がりました。

エジプトの当時の人口が約 200～250 万人であるということや、労働者の村が発見されておりその規模からおそらく建設に関わっていたのは 2 万人ほどではないかというお話もありました。

この労働者の多くは農民であり、夏の間は農業に従事できない彼らに建設に関わってもらうことでピラミッドは造られたのではないかとのこと、具体的にその後に発見されたという労働者の村の写真も見ながら、ここは宿泊するところ、ここはパンを焼く台所、という説明があり、聞きながらみんなで「本当にここに人が暮らしていて、人がこの大きな建造物を作ったんだ」という実感が湧いてきた瞬間でした。

一方で、講義の終盤にかけては先生から大きな問いが投げかけられました。

このピラミッドが造られた当時も今も、エジプトの人たちの中には一定数、文字が読めない、書けない人たちがいる。平均的なことは大体できるという人が多い日本とは違うということが言える。

ピラミッドの内側の岩は歪んでおり大小さまざまだが、全体として稜線は真っ直ぐに建てられていて狂いがない。なぜか？

私たちが今暮らしている現代社会には電気があり、テレビがあり、家があり、けれどもそのどれもが 100 年後には使えなくなっているものかもしれない。私たちの社会では 5 年、10 年ものものを作ることも難しい。それくらい忙しい社会に私たちは生きており、モノは溢れているが果たして幸せかどうか、幸せであるとは限らない。

古代エジプト文明は 5 千年、まだここからも 5 千年残るであろうものを造り出すことができたという凄さがある。

豊かさとは何か、文明とは何か、人の幸せとは何か。比較することは難しいかもしれないけれど、問いかけて考えてみる価値はきっとある、と思わされた講義でした。

この授業で 2021 年度の授業は最後となったため、授業の後には学長の榊原洋一先生より修了証書の授与が行われました。子ども大学たま第 1 期生の皆さんには、学んだことをぜひ活かしていろいろな疑問や問いをもって行ってほしいというお話がありました。

1 年間休まず出席してくれた子、一部の授業については後からのアーカイブ確認となった子など様々なお子さんがいらっしゃいましたが、皆さん 1 年間とても積極的に授業に参加してくれました。スタッフにとっても大変学びの多い、子ども大学たまの初年度となりました。

<子どもたちの声> ※授業後アンケートより

●授業で新しく知ったことについて

- ・ピラミッドは昔きれいな石が周りにあったという事を初めて知りました。他にもそのきれいな石が盗まれたという事も初めて知りました。とても楽しかったです。(4年生男子)
- ・何事もチャレンジし、未来を創ること(6年生女子)

●修了式で修了証書を渡されたときの感想

- ・本当の大学生になった気分だった(4年生男子)
- ・この一年間に、様々な方から様々な分野の知識が一生の思い出になり感動しました。(6年生女子)

下記は 2022 年 4 月 30 日時点の情報です。
最新情報は子ども大学たまのホームページでご確認ください。

子ども大学たま 2022 年度【第 2 期】授業のお知らせ

■第 1 回

- ・講 師：榊原 洋一（小児科医、子ども大学たま学長、お茶の水女子大学名誉教授）
- ・テーマ：「人の体の不思議」
- ・日 時：2022 年 7 月 31 日（日） 14:00～16:30
- ・場 所：白百合女子大学（東京都調布市。京王線「仙川駅」徒歩 10 分）

※授業前に入学式を実施します

■第 2 回

- ・講 師：浅田 稔氏（大阪大学名誉教授）
- ・テーマ：「ロボットについて（仮）」
- ・日 時：2022 年 8 月予定 14:00～16:00
- ・場 所：白百合女子大学（同上）

■第 3 回

- ・講 師：塚田 清啓氏（東京都埋蔵文化財センター 副主任調査研究員）
- ・テーマ：「多摩の東京埋蔵文化財について（仮）」
- ・日 時：2022 年 10 月予定 14:00～16:00
- ・場 所：東京都埋蔵文化財センター（東京都多摩市。京王相模原線「京王多摩センター駅」徒歩約 5 分、小田急多摩線「小田急多摩センター駅」徒歩約 5 分、多摩モノレール「多摩センター駅」徒歩約 7 分）

■第 4 回

- ・講 師：中村 安秀氏（大阪大学教授）
- ・テーマ：「海をわたった母子手帳(国際協力のなかで学んだこと)」
- ・日 時：2022 年 12 月予定 14:00～16:00
- ・場 所：白百合女子大学（同上）

■第 5 回

- ・講 師：菅原 ますみ氏（白百合女子大学教授、お茶の水女子大学名誉教授）
眞榮城 和美氏（白百合女子大学准教授）
- ・テーマ：「人の心理について（仮）」
- ・日 時： 2023 年 2 月予定 14:00～16:30
- ・場 所： 白百合女子大学（同上）

※授業後に修了式を実施します

なお講師、テーマ、日時、場所はいずれも予定です。

またコロナ禍の状況次第でオンライン授業に切り替える可能性があります。

最新情報は子ども大学たまのホームページでご確認ください。

<http://tamakodomo.main.jp/>

発行日 2022年4月30日
発行 NPO法人 子ども大学たま
<http://tamakodomo.main.jp/>
編集人 NPO法人 子ども大学たま事務局